

特別賞

日本の森林を守ろう

白金小学校 福田 慈英

僕は、自転車で出かけるのが大好きだ。真夏の昼間、アスファルトの照り返しは、厳しい。救われるのは、木陰に入った時だ。木陰は風が涼しく、生き返る。なので夏に街路樹の剪定作業を見ると、がっかりしてしまう。

さて、木を切る事は環境破壊なのだろうか。僕たちの感覚では、『木を切ること』＝「良くない事」と思いこんでいる。実は、日本の国土の七割が森林だそう。だが、調べてみると、紙の原料となるパルプの約七割は輸入でまかなわれている事が分かった。それは、日本だけでなく、世界で熱帯雨林やタイガの針葉樹林などを原料として、すごいスピードで、伐採して、環境破壊がどんどん進んでいるのだ。

一方で、日本の森林は、どうなっているのか。日本は緑に恵まれた国だが、安い輸入材が大量に、手に入るようになったことから林業が成り立たなくなり、山間部の過疎化が進んだ。そして、昔の人が、丹精込めて作られた里山が放棄されて、木がぐんぐん育ち、森の構造が大きく変化している。林の中が暗くなり、下層の植物が減り動物のエサ

がなくなる。そして里や町に出て、人間の生活に害をあたえるという、食物連鎖の乱れが発生する。また、木が育ちすぎて、太陽の光が当たらず、絶滅しそうな植物もある。

どうやら、世界と日本の森林の環境破壊事情が違うことが分かった。そして僕は、日本で木を切ることに考えてきた。調べてみると、日本では、むしろ木を切ることが森林を守る事になるらしい。だから森の手入れがされないと、森林は、光が届かず下草が生えない。逆に、間伐や枝打ちした森林は、明るくなり、下草が元気に茂る。森が放置されると花粉が増え、花粉症が増えると主張する人もいる。

暮らしの中で、国産の木材を使用する量を増やせば、伐採の山に新しい苗を植える事もできる。そうすれば、森を守ることにつながるのだ。

さらに、森を育てる事が海を豊かにするのだ。宮城県のカキ養殖業を営む人たちは、おいしいカキを育てるために、山に木を植える事から始めるそう。海水に豊富なミネラルが必要だと考えるためである。また、身体障害者の人達は、こつぱを利用した割り箸を袋詰めをする作業を通し、自立の道を歩んでいると聞いたこともある。

このように考えると、僕たちの生活に木は絶対に必要なものだと思えた。そして、大事なものは、安い外国の材料に頼りすぎないことと、古来からの里山文化を大切に守ることだと思った。